（別紙4）　　令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4191300047		
法人名	社会福祉法人千悠会		
事業所名	グループホームこころ小城		
所在地	小城市小城町晴気2370-4		
自己評価作成日	令和3年4月10日	評価結果市町村受理日	令和4年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人　佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	令和3年6月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念にある「第二の家族」と思って頂けるよう入居者様と関りを多く持ち、思いに寄り添って支援を行っています。個々の「今出来る力」を把握し生活の中で活用して頂けるよう、常に考えながら実践するとともにご家族様に報告しながら気軽に何でも話して頂ける環境づくりを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

自然に囲まれた環境に佇むホームで、居室内から四季の移ろいを楽しむことが出来る。周囲には別荘が立ち並んでおり、静かでゆったりとした空気が流れている。コロナ感染予防のため、外部と行事を開催する頻度は減少したが、室内でもできるイベントを工夫して行い、運動会や誕生日会、おやつ作りなど季節にあったイベントを開催し、入居者は日々楽しみを持って過ごしている。また、玄関には次亜塩素酸の噴霧器が設置されており、コロナ感染予防に努めている。理念にもあるように、職員は日々の生活の中で家族の一員として入居者に寄り添い、温かい対応がなされている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
		○	4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目に付く事務所や玄関に提示し、ミーティング等でも理念に基づいた支援を確認しながら行っている。	理念は、玄関内、事務室、職員トイレに提示し、月1回のミーティングにて共有している。新人職員には適宜伝え実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症予防の為外出する機会がなく地域との交流は今は行えていない。コロナウイルス終息した際には公園や散歩、ドライブに行く事で地域との交流を図っていきたい。	近隣の方より、野菜の差し入れがある。回覧板も回ってきており、地域の一員として行事等の情報を得ている。また、日頃の散歩時には、近隣住民と挨拶や会話を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からの相談や問い合わせに対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内だけでの運営推進会議を年6回行っている。コロナウイルスの為地域包括や地域の方との会議は行えていない。書類作成し地域包括へ書面を提出している。	コロナ禍のため、会議は施設職員のみで開催し、外部メンバーの参加が無い。開催書類はあるが、議事録が不足している。	書面での開催時にも、会議メンバーの意見を聴集する工夫を行い、会議書類と議事録の整備に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年に2回勉強会を行う事で再確認を行い、ホームの一部を除き施錠をしていない。	市や保険者へ介護保険の更新や変更など報告している。市より研修会のお知らせをもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化検討委員会を設置し年に4回検討を行っている。その結果について職員に周知徹底を図っている。	ホーム内での身体拘束者はいない。3ヶ月に1度身体拘束適正化委員会を行っている。身体拘束についてのマニュアルがあり、身体拘束について勉強会を行っている。しかし、委員会の記録に不足が見られる。	今後、議事録の整備や職員の共有ができるように期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年に2回虐待についての勉強会を行い再確認し、常に意識しながら取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等で学んだ事を職員間で共有している。必要性がある方に活用して頂けるよう関係者と連携を取り、支援するようしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の該当箇所を示しながら口頭で十分な説明をし同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時には気軽に話をしてもらえるような雰囲気づくりを行っている。相談や意見についてはミーティングにて検討している。	入居者の状態変化時や病院の受診後は、電話や面会時に報告を行い、家族からの意見がないか確認している。意見が出た場合は、職員ミーティングにて話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の中で随時検討を行い反映している。	休み希望や有休など職員の希望を取り入れている。月に1度のミーティングの時に必要な物品やケアについての話し合い、検討を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当を設け、各自が向上心を持って働けるようにしている。又、処遇改善費を有効活用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修で学んだ事を職員間で共有している。外部研修へ行った際は外部研修に行った職員が研修資料に基づいて施設内研修の司会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	訪問診療や薬剤師訪問時に相談や質問をして回答を得る事で職員間で周知しサービスの質を向上させている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の想いを傾聴するだけではなく、表情や仕草からも汲み取り寄り添う事で安心して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の思いを受容しながら信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要なサービスを見極め、自施設での対応が困難な場合には、本人、家族の理解を得た上で他のサービスを含めた対応が出来るよう務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「出来る力」を理解した上で、その力に応じた作業を談話しながら一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡を定期的に行い状況報告し、必要があれば相談や確認をその都度行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症予防の為面会自体は減っているが、感染対策をして頂き短時間で居室にて面会を行っている。	コロナ感染対策を行い、少人数で短時間での面会を行っている。冠婚葬祭など家族行事に参加できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の意思や相性を日頃から観察し把握し、ミーティングやその日の出勤者で話し合いリビング席の配置移動を行っている。職員が間には入り良好な関係が築けるよう橋渡しを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後家族より連絡があった際はその都度相談や支援等を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で情報の共有を行い本人や家族の希望、意向に添えるよう努めている。	入居者の中で思いや意向を言葉で伝えることが出来る方は、入浴や食事などゆっくりとした時間に要望など聞いている。言葉で伝えることが困難な方については、家族に聞いたり、言葉をかけながら表情を見て本人の意向を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から以前の暮らしを聞いたり、サービス利用については当時の担当者から情報提供をして頂き、十分なアセスメントを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、心身の状態を観察してる。個々の有する力に視点を置き、職員間で常に共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、主治医から聞き取りし意向を基に充分に話し合い、計画を作成しミーティングにて現状確認を行っている。	介護計画は半年に1度の更新を基本としている。状態の変化等あった場合は、その都度話し合って変更し、現状に即した介護計画を作成し、適切なケアができるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をパソコンに入力し、状態に応じて職員間での話し合いを行い計画書の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向や現状を家族と相談し、適切な支援が行えるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスにより外部との交流が出来ていない状況である。終息次第行事等で地域の方との交流をしふれあいを積極的に行う事で楽しく生活して頂けるよう支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を継続している。家族による受診が困難な場合は職員が付き添い受診を行い、家族へ伝えている。	かかりつけ医が3ヶ所の医療機関より往診に来ており、歯科の往診もある。受診時は、医療機関とスムーズな連携を行うため、受診ノートを作成し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師や訪問看護師に相談や状態報告を定期的に行っている。緊急時には連絡を行い早急に対応出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できるだけ早期に退院できるように、こまめに病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針及び看取りに関する指針についての同意書を取っている。希望の際にはどのようなケアを望まれ、何ができるか確認し職員間で共有している。かかりつけ医や訪問看護と連携し強化を図っている。	入居時の説明の他、必要時には、看取りについての指針を説明し、同意書を交わし、家族・本人・訪問診療や訪問看護など利用してホームで出来るケアを検討していく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等を備え、定期的に勉強会を行う事で再確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練、避難訓練を実施している。緊急時の連絡票に職員だけでなく地域の方も登録している。	夜間想定も含め、年2回の火災避難訓練を実施し、備蓄品の食糧の入れ替えも行っている。入居者と共に避難場所へ移動する訓練も行っているが、夜勤専属の職員が訓練に参加していない。	夜勤専属の職員も訓練に参加し、地震や土砂災害への備えを含め、地域との協力体制づくりに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いは職員と契約書を取り交わしている。人格を尊重した言葉かけを行い、プライバシーに配慮した環境を整えている。	個人情報の管理は、鍵のかかる場所に保管している。また、特に入浴時やトイレ時は羞恥心に配慮し、さりげない言葉かけやプライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを多くとり、その時の思いを汲み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースや体調に合わせて、確認を取りながら過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を本人自ら選んで着て頂き、ご自身で出来ない場合は言葉かけし選んで頂いている。白髪染めを希望される方は職員が行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に話をしながら準備や食事の片付けを行っている。	3食ともホームで手作りし、日頃の会話で本人の好みを聞き、献立に反映するよう努めている。また、入居者個々人の能力に併せて、食材を切ったり、皿洗いを一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の状態に応じて量や形態に配慮して提供している。チェック表に記録し必要時は医師への報告し指示を仰ぎ対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員見守りや一部介助、全介助のもと口腔ケアを行っている。希望者は歯科往診にて口腔内清掃、治療を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや訴え時にトイレ誘導、オムツ交換を行っている。訴えの無い方でも時間や本人の仕草、表情で察し支援を行っている。	排泄チェック表を活用している。一人ひとりに合わせた声掛けを行い、日中は全員がトイレでの排泄が出来るよう支援してる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた食事や水分補給を心掛けている。毎日レクリエーションやボール体操で運動を行い、予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが希望や状況に応じて、設定日以外でも対応している。	週3回の入浴を基本とし、本人の状態により入浴が出来ない場合は、清拭や陰部洗浄を行い、清潔に過ごせるよう支援に努めている。また、季節に合わせてゆず湯やしょうぶ湯を行い、入浴が楽しみなものになるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせ自由に休憩をとって頂いている。休まれている時も、時折様子観察を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情はその都度個人ファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしている。薬の効能や副作用も理解し状態観察を行っている。変化あれば主治医に報告し指示を仰ぎ対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コミュニケーションを図りながら個々に合った軽作業を行っている。レクでは全体での体操や歌、ゲーム等を行い楽しんで頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防の為外出が出来ない状況である。天気や気候が良い日には庭に出て花見や外でのおやつを取って頂いている。	希望があれば、近隣へ散歩に出かけたり、庭へ出て、花見や外気浴を行っている。買い物へ出かける時は、職員は安全に配慮しながら必要最小限の介助に留め、本人にカートを押してもらう等し、その人らしく買い物が楽しめるよう支援に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員、家族が管理しており本人の希望があれば買い物支援等行っている。買い物した際は本人に金額を伝え、使える事の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、その都度対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花壇に花を植え、畑で野菜を作っている。玄関やリビングに花を活け季節感を取入れ明るい雰囲気づくりをしている。	共有空間では、窓から庭の植物を眺めることで季節を感じることができる。日中は薄手のカーテンを活用し、まぶしすぎないよう光量を調節している。室温時計や、次亜塩素酸噴霧器を活用し、安全で安心な空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを増やす事で共用空間での居場所を選んで使えるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は馴染みの家具や品を持参して頂き、家族と相談してレイアウトしている。	持ち込み禁止のものはなく、位牌を持参されている入居者もいる。整理棚、ベッドはホームのものを使用し、馴染みの家具や備品は入居時に家族・入居者と相談しながら配置し、居心地よく過ごせる居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態を把握した上で支援を行っている。出来る事を奪ってしまわないよう心掛けている。		